

「能登に思いを届けたい！」宮城の高校生の思いが本に…

宮城県高文連・高体連 連携事業 「心のバトンプロジェクト」

教育長表敬訪問について

令和6（2024）年に発生した能登半島地震。「私たちにできることはないのか？」という宮城野高生の思いから、現地の美術大学や京都の美術高校との連携・協力により、能登半島復興支援「心のバトンプロジェクト」が立ち上がりました。この度、現地で行ったワークショップの成果をまとめた絵本『のと食堂』が完成したことから、その報告のため、プロジェクトに参加した生徒たちが教育長表敬訪問を行います。

報道機関の皆様におかれましては、ぜひ取材してくださるようお願いいたします。

- 1 訪問日 令和7年5月8日（木曜日） 午後4時から午後4時30分まで
- 2 場所 宮城県行政庁舎4階 特別会議室
- 3 対応者 宮城県教育委員会 教育長 佐藤 靖彦
- 4 訪問者 宮城県高等学校文化連盟 会長 田渕 龍二（宮城野高等学校校長）
宮城野高等学校生徒（3名）3年 増子 八雲（ましこ やくも）
3年 市川 天（いちかわ あまみ）
2年 佐藤 萌結（さとう もゆ）

<「心のバトンプロジェクト」について>

- 東日本大震災翌年の平成24（2012）年、美術をとおして被災した人々に心の癒やしを届けたいとの思いから、宮城野高等学校と東北生活文化大学高等学校、京都市立美術工芸高等学校の三校が連携・協力し、「復興へ!! 高校生が架ける虹のアートプロジェクト」を立ち上げ、被災地での作品展示や子供向けワークショップなどに取り組んできた。
- この縁で、令和6（2024）年に発生した能登半島地震の後、宮城野高等学校と京都市立美術工芸高等学校の2校で何かできないかという話が持ち上がった。ここに高文連・高体連も加わって募金活動を行い、総額で189,401円が集まった。
- 宮城野高校生3名と教員2名が能登に向かい、募金を手渡すとともに、金沢市に避難している被災者の方々に能登での思い出の食べ物をインタビューし、想像だけで絵を描くワークショップ「のと食堂」に挑戦した。今回完成した絵本は、このワークショップの成果をまとめたものである。
- 絵本には、高校生が想像だけで描いた食事の絵や紹介文、聞き取り時のエピソード、感想などがまとめられている。

